

核廃絶に向けた取り組みの強化を求める意見書

世界には今、約 23,300 発の核兵器が存在しているといわれています。

現在では、大勢の生命を奪った広島型、長崎型原子爆弾の 100 倍以上の威力を持つ核兵器が開発されています。

核兵器は人類の生存権を脅かす非人道的な兵器であり、その廃絶に達しない限り世界は脅威にさらされ続けることになります。

アメリカのオバマ大統領は、2009 年 4 月 5 日プラハで唯一の核使用国としての道義的責任に言及し、「核兵器のない世界を目指す」と演説をしました。そして、各国の指導者からも、核廃絶を求める議論が政治レベルでも活発化し、2010 年 5 月に開催される核拡散防止条約（NPT）運用検討会議に注目が集まっています。

核実験の禁止や不拡散などの軍縮議論を超えて、核廃絶を目的とした禁止条約制定が世界平和のためには不可欠です。

よって、土岐市議会は、政府に対し、日本政府が唯一の被爆国の政府として、こうした国際的な機運をとらえ、核兵器廃絶の実現にむけて、下記の具体的取り組みを実施するよう強く要望する。

記

1. 2010 年 5 月の核拡散防止条約（NPT）運用検討会議で、核保有国が核兵器廃絶への明確な約束が再確認・履行されるよう主導的な役割を果たすこと。
2. 核保有国をはじめ国際社会に対して、核兵器廃絶国際条約の締結をめざして、国際交渉を開始するよう働きかけること。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

編集後記

寒い冬が過ぎようやく暖かくなっていた 4 月、5 月の天候はといえば、夏のような暑い日と冬のような寒い日が交互にめぐり衣替えの準備もできませんでした。こうした天候の影響で一部の野菜の価格が高騰し家計を預かる身としては閉口してしまいました。

さて平成 22 年度第 1 回定例会が開催され、市税収入の落ち込みが見込まれる中、最小の経費で最大の事業効果を目指して総額 456 億円の新年度予算が組まれました。また、5 月 12 日に第 2 回臨時会が開催され新年度人事も決定されました。

本年度は、私達市議会議員にとっては任期の最終年度であります。この一年を市民の皆様にとって安心、安全、安穏な年にできるよう努力してまいります。

そして、議会だよりにつきましても、読み易い「紙面」、解り易い表現を心掛けてまいります。ご意見、ご要望がありましたら議会事務局又は編集委員までお寄せ下さい。

（文責 高井由美子）

編集委員

座長	小栗 恒雄	副座長	杉浦 司美
委員	布施 素子	高井由美子	長江 光則 松浦 勝男

議会だより編集委員も変わりました。（次号から新たな委員で編集します）

委員	布施 素子	高井由美子	宮地 順造	小栗 恒雄
	楓 博元	平林信一郎		

（座長・副座長は、後日互選します。）